

役職等	団体等	役職	氏名
委員長	瀬戸市	市長	川本 雅之
副委員長	瀬戸市	副市長	大森 雅之
委員	瀬戸市歴史文化基本構想策定委員会	元委員長	青山 一郎
委員	瀬戸市教育委員会	教育長	加藤 正彦
委員	愛知県陶磁美術館・陶磁史篇第八巻	館長・部会長	佐藤 一信
委員	愛知県立芸術大学美術学部	教授	長井 千春
委員	陶磁史篇第七巻部会	部会長	仲野 泰裕
委員	せとモノがたりの会	会長	丹羽 薈
委員	瀬戸市歴史民俗資料館	元館長	山川 一年

※五十音順

第 2 回瀬戸市史編さん委員会陶磁史篇第七卷部会議事録

日時	令和 6 年 8 月 22 日（木）午後 1 時 57 分～午後 3 時 50 分
場所	瀬戸市文化センター文化交流館 21 会議室
出席者	部会長 仲野泰裕、他委員 2 名 事務局（文化課）服部、山内、武藤

1 開会

事務局から本日の配布資料の確認があった。

2 協議事項

(1) 瀬戸市史陶磁史篇第七卷構成案について

仲野部会長から構成案について資料 1 に沿って内容の説明があった。

説明後、各委員からの意見交換が行われた。

(主な意見)

- ・構成が時系列に並べてあることはわかりやすい。構成案の大きな流れはこれでよい。
- ・例えば瀬戸村の窯屋に対しての「御用窯」の表記のように何をもって「御窯屋」とするのか。
- ・文献資料に出てくる新製・染付・磁器のように実際に何を指すのか、こうしたことを始めとして言葉の使い方をこの機会に再吟味・整理する必要がある。

※意見交換後、構成案の基本的な点については大きな問題がないこと、調査研究を重ねる中で必要な部分を適宜修正していくことが確認された。

(2) 今後の史料調査について

事務局から資料 2～5 について説明があった。

資料 5 の前回の瀬戸市史編さん委員会による収集資料の所在について、事務局再確認作業を行うこととした。

事務局から委員へ次回の部会までに本日配布した資料および今後の資料調査等について意見・要望を寄せていただくよう依頼をした。

(3) 今後の役割分担について

第七巻の執筆の分担について各委員からの意見交換が行われた。

※事務局が作成する分担案の素案を次回の部会開催前に配布して、検討期間を設けた上で次回部会において検討することとした。

3 その他

次回部会の開催は令和 6 年 12 月下旬頃とする。

第 3 回瀬戸市史編さん委員会陶磁史篇第七卷部会議事録

日時	令和 6 年 12 月 18 日（水）午後 3 時 01 分～午後 4 時 44 分
場所	瀬戸市文化センター文化交流館 21 会議室
出席者	部会長 仲野泰裕、他委員 2 名 事務局（文化課）服部、山内、武藤

1 開会

事務局から本日の配布資料の確認があった。

2 協議事項

(1) 瀬戸市史陶磁史篇第七卷構成案について

各委員から構成案について資料 1 に沿って内容の説明があった。

説明後、各委員からの意見交換が行われた。

(主な意見)

- ・第 5 章第 5 節について、第 5 項として燃料を入れた方がいいか。
- ・第 1 章第 1 節第 1 項瀬戸竈屋の系譜・系統について、陶器生産者と磁器生産者間の闘いをここで書けないか。
→現段階では根拠に乏しく難しい。今後良い史料が見つければ検討していく。
- ・ロクロ、イス、ケヤキなどの用語について、漢字を使うのがいいのかどうか今後検討したい。また、第七卷の全体タイトルも検討していきたい。

※意見交換後、構成案の基本的な点については大きな問題がないこと、調査研究を重ねる中で必要な部分を適宜修正していくことが確認された。

3 その他

(1) 次回検討事項

- ・窯業用語について、漢字使用方法の検討
- ・第七卷の全体タイトル
- ・令和 7 年 2 月末ごろまでに、写真や翻刻文も掲載した各担当分のページ割り振り案を提出してもらい、次回部会にて検討。

次回部会の開催は令和 7 年 3 月頃とする。

第 2 回瀬戸市史編さん委員会第八巻部会開催結果

日 時	令和 6 年 1 0 月 3 1 日（木）午前 1 0 時 4 8 分から 1 2 時 4 分
場 所	瀬戸市文化センター 2 1 会議室
出 席 者	（瀬戸市史編さん委員） 佐藤一信部会長、他委員 1 名 （事務局） 文化課 服部、山内、武藤

1 開会

事務局から本日の配布資料の確認があった。

2 協議事項

(1) 瀬戸市史陶磁史篇第八巻構成案について

事務局から構成案について資料 1 に沿って内容の説明があった。

説明後、各委員からの第八巻に掲載する必要な項目や全体のボリュームを中心に意見交換が行われた。

(主な意見)

- ・全体で見た時、国内向け製品の扱いが小さいのでは。ボリュームの差があるのはいいか。
- ・産業は現在も続いているものもあるため終わり方が難しい。陶芸については昭和ぐらいまでで終わらせたい。
- ・どのぐらいのボリュームで分冊するか。
→今までの市史は資料編が出ているが、資料編に写真を入れてボリュームを減らすことはできるのか。
→市史編さん委員会で発言されたように上・下の分冊がよいのでは。
- ・産業編のような形で、会社や組合を書いたものはあるのか。
→通史編に記載はあるが、あくまで組合史。産業における組合の役目などを書いたものは無い。今までの市史に掲載されている部分も切り口を変えて書いていく。

※章立て案意見は今年中に事務局に提出することとし、了承を得る。

3 その他

次回部会の開催は令和 7 年 1 月下旬頃とする。

第3回瀬戸市史編さん委員会第八巻部会開催結果

日 時	令和7年2月21日（木）午前10時01分から12時
場 所	瀬戸市文化センター21会議室
出 席 者	（瀬戸市史編さん委員） 佐藤一信部会長、他委員2名 （事務局） 文化課 服部、山内、武藤

1 開会

事務局から本日の配布資料の確認があった。

2 協議事項

(1) 瀬戸市史陶磁史篇第八巻章立てについて

事務局から構成案について資料1に沿って内容の説明があった。

説明後、各委員からの第八巻に掲載する必要な項目を中心に意見交換が行われた。

(主な意見)

- ・ 明治時代にこのような窯屋がいたのか、というような問い合わせが多いことから考えて、作例があって名前が分かっている人を網羅した表をいれてはどうか
- ・ 大正・昭和時代に関しては組合が細分化されているので、組合資料から瀬戸の記述を抜き出せばよい。業者リストもあるとよい
- ・ 年表は作成するのか。
→必要であるならば作成する。
- ・ 明治時代の新聞はすべてあたったことはあるのか。
→前回の市史編さん時に一部は見ているが、通史篇編さん時の為やきものに特化して見たことはない。
- ・ 大正時代以降の総論は現在なく、各論で対応しているが、総論をどうしていくかが問題。
→何本か柱を立てて体系的に書けるとよい。
→経済的な目で追っていくのではなく産地的なくくりとして総論になるという。
- ・ 石膏型について国立公文書館デジタルアーカイブに上がっている資料があるため、それを使用したい。
- ・ 分冊について、繋がりをはかりやすくするため上下巻とするのがよいのでは

ないか。

→全委員一致

- ・石膏組合の社史や、サンエス社史あたりの資料はあるか

→事務局では集めていない。

→常滑の試験場なら調べることができるかもしれない。

(2) 瀬戸市史陶磁史篇第八卷担当割について

担当者を別紙のとおり割り振った。

3 その他

次回部会の開催は令和 7 年 6 月頃とする。

次回までに自分の担当分を再確認する。